



☆平戸市民病院



平戸市民病院での地域研修では外来、病棟だけでなく、健診、訪問診療・看護、臨床検査・胸部レントゲンの方法など、自分たちの病院でも関係あるはずなのに、日々の忙しさで目を向けてい

なかったことを多く経験させて頂きました。先生方は担当患者との信頼関係が確立されていて、患者の職業、生活環境、考え方を家族同然に理解しており、患者に寄り添う医療のあるべき姿を学びました。この1ヶ月の間、先生方を始め、医療スタッフの皆様、地域住民の方々に大変お世話になりました。貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

魚田晃史(日生病院)

辻川真太郎(横浜労災病院)

大石誠(長崎大学病院)

☆柿添病院



真夏の日差しがふりそそぐ8月、我々は柿添病院で一か月研修させて頂くことになりました。朝目覚めてまず目の前に海、潮の香り。普段とまったく違う環境でスタートした一か月間でしたが、日々新たな経験と勉強

の連続でした。柿添病院では、急性期病床だけでなく、療養型病床、訪問リハ、通所リハ、在宅医療、診療所医療など地域密着型の全人的医療を行っており、一か月ですべてを研修させて頂きました。普段の研修ではなかなか診ることができない、急性期医療の先、リハビリから自宅に帰るまでを知ることができ、またそれを支えている、医療関係者、スタッフの方々の存在、重要性を改めて感じました。方言がわからなくても、みなさん笑顔で話しかけてくださり、人と人のつながり、地域を診るといふ信頼関係の根強さを感じられた気がします。多くのことを学ぶには大変短い研修でしたが、ご指導いただいた先生方、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。冬の海鮮も食べに帰って来たいです。

桶谷明生(九州中央病院)

平中孝明(西神戸医療センター)

杉野太亮(西神戸医療センター)

平成27年8月31日

発行：ながさき県北地域医療教育コンソーシアム

<http://agonet.jp/>



☆青洲会病院



1か月間、青洲会病院で研修させて頂き、病院内の業務だけでなく、訪問看護や訪問リハビリ、離島医療にも携わらせていただきました。特に印象深いのが度島に訪問リハビリで訪れた時で、訪問した患者さんの奥様が数日前、蜂に10箇所以上

刺され診療所で治療を受けたというエピソードでした。幸いにも診療所に医師が居る時であったため、その時は迅速な対応が可能でしたが、不在であった場合は30分以上かけて平戸の病院を受診する必要があったとのことでした。離島で生活をする中で、時に緊急性を要する疾患の対応が遅れ、本土では治癒可能である疾患も致命的になり得るといふことは、普段自分が行っている医療にはない難しさだと感じました。一か月という短い期間でしたが貴重な経験をする機会を下さった青洲会病院の植田院長を初め、スタッフの皆様方に心より御礼申し上げます。

近藤立樹(静岡済生会総合病院)

温麟太郎(福岡青洲会病院)

☆生月病院



2015年8月の1か月間、生月病院で研修させて頂きました。研修では、午前には外来診察、午後は検診や往診などをさせて頂きました。外来では、2歳の女の子から102歳のおばあちゃんまで、ムカデ咬傷から癌の終末期まで、色々な

年代の、色々な症状・疾患の患者の診察をさせて頂き、求められるものの幅広さに恐れながらも、先生方や看護師さんたちのバックアップに頼りに頼り、新しい経験を楽しむこともできました。午後の検診や老健施設での回診、訪問診療や予防接種などでは、これまで経験したことのないことばかり体験させて頂きました。患者さんの生活の場に入り、診療を行うことに戸惑うこともありましたが、先生方が患者さんやご家族とお話する中で、患者さん達の笑顔や安心した様子を見て、「医師」や「患者」という形だけではなく、「人」と「人」として向き合い、病気を含めた生活そのものを理解しようとするのが大切なのだと実感しました。生月病院での研修は、自分の未熟さを痛感することばかりでしたが、先生方を始めとして、看護師、検査技師、事務員ほか病院の職員の皆様にサポート頂き、患者さんやご家族に優しく受け入れて頂いたお陰で、楽しく多くのことを学ぶことができました。今後もこの体験を忘れず、どの地においても自分も地域医療に関わる医師の一人であることを肝に銘じ、修練に励みたいと思います。本当にありがとうございました。

千葉智哉(横浜労災病院)

濱田由紀(嬉野医療センター)